

令和4年度
ひょうご
オンリーワン
企業
再認定



技術は世界レベル ガス系消火設備の パイオニアメーカー

株式会社コーアツ

代表取締役社長 佐々木 孝行 氏

■会社概要

所在地 伊丹市北本町1丁目310
電話 072-782-8561
FAX 072-782-8511
URL <https://www.koatsu.co.jp/>
従業員数 267名 (2022年9月現在)
資本金 6,000万円
設立 1951年 (創業1930年)
代表者 代表取締役社長 佐々木 孝行

■事業概要

ガス系消火設備の研究開発・設計、製造、販売、
施工およびメンテナンス

■PROFILE

1965年大阪生まれ。1987年に大学の経営工
学科を卒業後、株式会社コーアツに入社。
2007年総務部長に昇進後、業務改善、社内
環境の整備など様々な改革に取り組む。
2021年に代表取締役社長に就任。趣味はス
ポーツ観戦やライブ鑑賞、健康のために始め
た一日100回の腹筋を欠かさず励んでいる。



—「ひょうごオンリーワン企業」に認定された反響はいかがでしたか。

受付に受賞盾を置かせていただいているため、取引先が当社にお見えになる時に目に入るようです。「これは何ですか」と問われ回答する中で、当社の良さを伝える良い機会になっています。また、当社の名前やどのような仕事をしているのかを知ってもらうことが増え、採用活動に好影響が出ています。社内外に向け、会社として一つシンボルができたようで、大変うれしく思っています。

—認定後5年間で変わった点をお聞かせください。

2018年から兵庫県三田市にある三田テクノパークで「コアツ三田工場」を稼働させました。“みせる”工場をコンセプトにしており、製品展示はもちろん、デジタルサイネージを導入したショールームを兼ねています。ゆとりをもった空間設計と最新の製造・検査設備を導入し、高品質の製品を継続して生産できる体制を構築しました。

また同じ敷地内に2021年、「機器開発棟」を

竣工し、現在、研究開発部門がそちらで開発や試験に取り組んでいます。研究開発部門と製造部門の物理的距離が近くなったことで、コミュニケーションもスムーズになりました。

会社としては2021年2月17日におかげさまで創立70周年を迎え、それを記念してホームページをリニューアルしました。製品や設備については、改良を加えたりコストダウンを図ったりなど、最新・最適なガス系消火設備を提供できるよう、努力を続けています。

—ガス系消火設備の国内トップメーカーと伺いました。

当社の創業は戦前で、スタートは船舶に使われていた二酸化炭素消火設備でした。二酸化炭素消火設備は、ガス系消火設備のなかでも最も古くから採用されている消火設備です。以降、時代とお客様のニーズに応じて変遷してきました。

戦後まもなくして造船ブームが起こり、お客様のご要望にお応えする形で当社が設立されました。日本の成長とともに電力需要が高まり、発電所建設ブームが起こり、市場が広がりました。



た。やがてインフラが整い、交通や通信に関わる施設にも当社のガス系消火設備が採用されることになりました。

ガス系消火設備に使用する消火ガスは、市場のニーズに応じて変化してきました。当初は消火力が高く入手しやすい二酸化炭素が使用されましたが、二酸化炭素は濃度が高くなると人命に関わる恐れがあります。そこで1970年代に人体に安全で消火性能の良いハロンガスに着目し、市場に導入しました。その後、ハロンが放出する臭素がオゾン層を破壊すると言われるようになり、2010年1月1日以降、世界的に生産が全廃されました。代替えとしてHFC（ハイドロフルオロカーボン）ならびに窒素ガスを採用しましたが、HFCもまた地球温暖化を引き起こす要因になるということで、現在の市場では窒素ガスが主流を占めています。



窒素ガス貯蔵容器が並ぶボンベ室

一窒素ガス系消火設備の仕組みについて教えてください。

防護区画に取り付けられた感知器でもって、火災信号を感知し、火災受信機に信号を送ります。その情報が制御盤に伝わって容器弁ソレノイドが作動し、消火剤を放出します。システム構成の中で当社の技術が集約されているのが、窒素ガス貯蔵容器についている容器弁です。窒



ガス系消火設備の選択弁

素ガスを瞬時に開放するとともに適度な圧力に下げながら一定のガス量を放出する特殊な構造になっています。

窒素ガス貯蔵容器は超高压力（35℃で約30MPa）になります。容器弁には、その圧力に耐えつつ、確実な作動が求められますが、それに十分応える製品として高い評価を得ています。

一御社が選ばれる理由はなんだと思われ ますか。

当社の製品は、消防用設備等評価機関（一財）日本消防設備安全センターから認定・評価を受けています。また、厳格な国際基準である米国UL規格を取得しています。製品の品質はもとより、70年間にわたり積み重ねてきた「安心して使える」実績と築き上げた信頼関係こそが、当社が選ばれる理由なのだと思います。誤作動を起こす、火災が起きたとしても確実に消し止めることができない、といった不具合などがあつたら、今のポジションにはなかったことでしょう。

—シェアを伸ばすために工夫されていることについてお聞かせください。

通信施設、高層ビル、美術館博物館、発電所、データセンター、各種工場などさまざまな施設に納入させていただいています。おかげさまで仕事は増えていますが、それは長い歴史の中で先人たちが成し遂げてきた領域で仕事を続けているからです。シェアを伸ばすためには、新たな市場確保が鍵になります。他のガス系消火設備企業がたどり着いていないような市場を見つけること。これを当社の重要施策として打ち出しています。

営業も頭を悩ませながら頑張ってくれています。例えば、ゴミ収集に使われる「塵芥（じんかい）車」。ゴミの中に可燃物が入っていると、そこから火が出て車が燃えてしまうことがあります。そういったところにも当社のガス消火設備を提供しました。まさに新市場と言えますね。

—技術向上のためにどんなことに取り組まれていますか。

技術の伝承については、力を入れています。機器開発棟も技術向上のための取り組みの一つです。長きにわたり積み重ねてきたノウハウやデータ、成功体験や失敗体験をこれから先もつなぎ続けていくことを心がけています。

また、スキルアップ支援として、消防設備士資格の取得はもちろんのこと、仕事に直結しなくても、配管施工管理技士、電気工事士、電気主任技術者などの資格取得を応援しています。



本社外観。世界トップクラスレベルの技術を誇る

—今後の事業展開についてお聞かせください。

大気中にも存在する窒素ガスを使用した消火設備を主軸に、新たな消火剤を使用した設備を追求していきたいと考えています。ガス系消火剤に関する研究は、日本のみならず世界で行われています。有効な消火剤が登場したらすみやかに試験、研究を重ねて製品化につなげられるよう研鑽していきます。また、消火設備一つとってもさまざまな改良の余地があるので、より良い設備づくりに努めていきます。

当社は設立以来、ガス系消火設備のパイオニア・トップメーカーとして、業界をリードしてきたという誇りを持っています。大手でもガス系消火設備を取り扱っていますが、ガス専門としてガスに集中しているのは当社だけ、という自負があります。だから絶えずトップを走り続ける。「他社には絶対に負けない」という強い信念を持って、自社製品にこだわっていきます。

—これからオンリーワン企業を受ける企業に対してのメッセージをお願いします。

オンリーワン企業の認定を受け、一番ありがたく感じたのは採用活動です。事業を進める中で、人材の確保はとても大切で、それがこれからの会社の成長につながると思っています。企業の成長を目指し、人材確保に取り組む。成長の中でオンリーワンとなる何かを生み出す。そんな意味合いでオンリーワン企業を受けてみてほしいのではないのでしょうか。



TECHNOLOGY

静音形噴射ヘッド 低風速噴射ヘッド

静音、低風で消火剤を噴射

当社の静音形噴射ヘッドおよび低風速噴射ヘッド（Zephyr、ゼファ）が、国内で初となる公的認証機関の【推奨】を取得しました。近年、データセンター等を中心に、ガス消火剤の放射音によるハードディスクへの影響を抑えるため、放射音制御機能を備えた噴射ヘッドを使用することが一般的になりました。また、風圧を抑え、展示品等の転倒や破損リスクを低減するため、美術館・博物館に設置する噴射ヘッドとしても有効です。壁面取付タイプと天井面取付タイプ*とがあります。*壁面取付タイプは静音形噴射ヘッドのみ。



壁面取付タイプ噴射ヘッド



天井面取付タイプ噴射ヘッド

NEWS&TOPICS

機器開発棟を開設

優れた外観デザインで 第55回サインデザイン賞に入選

コーアツ三田工場に隣接する「機器開発棟」を2021年に開設。研究開発部門が同年4月から移転し、開発業務をスタートしました。最新の試験設備を備えた施設です。設計、製造部門との距離も近くなり、コミュニケーションもスムーズになりました。

また、その優れた外観デザインが認められ、第55回サインデザイン賞に入選しました。

